

ラブロック、自治体・企業へ向けた DX プロジェクト支援サービスを提供

—Microsoft Power Platform で“必要な部分だけ”を“迅速に DX 化”—

2021 年 4 月 19 日

ラブロック株式会社

ラブロック株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：熊谷恒治、以下 RABLOCK）は、“脱、紙とはんこ”の潮流で DX 化が急がれるなか“必要な部分だけ”を“迅速に”デジタル化/自動化する DX プロジェクトを支援します。新サービスは Microsoft Power Platform を基盤とした自治体、企業の DX 化支援として DX 人材トレーニング及び DX プロジェクト支援サービスで構成されます。

なぜ Microsoft Power Platform なのか？

デジタル化プロジェクトは業務プロセス全体のデジタル化・自動化が鍵となります。Power Platform はフローの自動化は元より UI のノンコード開発そして AI やビジネスデータ分析をフロー中にプラグインする形で容易にデータ活用を進めることができます。さらにコミュニケーションツールである Microsoft Teams とのプラグインで人と人だけでなく人のシステムのコミュニケーションを図る有効な DX 基盤です。

RABLOCK の DX 支援サービス

・DX 人材トレーニング：DX 推進プロジェクトでは規模の大小はあれ業務プロセスの見直し、そして既存システムとの関係付などが発生します。DX 人材トレーニングでは既存システムを含めた業務プロセスの把握、デジタル化ポイントの抽出と改善案策定に加え DX 化で必要となる技術知識獲得と DX プロジェクトへ向けた提案依頼書や要求定義書を作成できるスキルを身に着けます。

・DX プロジェクト支援サービス：DX 推進プロジェクト推進に必要な業務プロセス分析、改善点の抽出、既存システムの活かし方、提案依頼書や要求定義書の作成を支援します。Microsoft Power Platform 及び Microsoft teams を基盤技術とすることで新規アプリケーション開発を極力廃したデジタル化プロジェクトの立案を支援します。

RABLOCK DXLAB とコミュニティ

RABLOCK は DX 支援サービスにあわせて DX 企画担当者に情報を提供する Web メディア、RABLOCK DX LAB を立ち上げました。（<https://www.d-driven.net/>）また登録制の RABLOCK DX COMMUNITY 経由で Webiner やホワイトペーパーを通して更に深掘りした情報を提供してまいります。

導入シナリオ

地方自治体では担当業務毎にプロセスの別れた問合せ業務への対応を毎日しています。それらは電話、e-mail、web フォーム経由と多岐に渡るチャンネルで構成されメールなどによる手作業のプロセスが中心となっています。これをデジタル化・自動化するシナリオが以下になります。

1. 問合せデータの一元化：メールを業務毎に分類。データベースへ登録。フォームも PowerApps でのノンコードで作成しデータベースへ登録する。
2. 担当グループ通知から回答：データ登録後 teams 担当チームで向けメッセージ配信。問合せ参照・回答作成は PowerApps のノンコードで作成、teams への紐付けて担当業務のみデータ表示、回答作成が可能。
3. 回答が作成された時点でメール返信のものはメールを自動送信。電話回答のものは担当者への通知を行う。



このシナリオで既存の仕組みを活かしながら Power Platform を活用しプロセス全体の自動化を進めます。さらに問合せ/回答のデータが集約されることでデータを活用した FAQ 自動生成、Web の見直し、bot コミュニケーションの強化を進めることができます。デジタル化によるさらなる業務改善が進められるわけです。

RABLOCK について

商号：ラブロック株式会社

設立：2018 年 5 月

代表者：熊谷恒治

会社概要：RABLOCK は DX 推進を支援するとともにブロックチェーンプラットフォームである RABLOCK Platform や Azure Blockchain Service を活用したブロックチェーンシステム企画支援サービスを提供するベンチャー企業です。2020 年にマイクロソフト社のスタートアップ支援プログラムである Microsoft for Startups に採択されました。

お問い合わせ：info@rablock.co.jp

Web: <https://www.rablock.co.jp/>